

# 古代史から見た邪馬台国 続

川崎 一 仁

## 1 はじめに

前回今年春に発表した表記論文は、第73世武内宿禰の口伝を基に、追加の考察を加えたものでしたが、この度新たに、別の口伝を基に天皇在位の古代史年代を修正して、邪馬台国はどこにあったかと卑弥呼は誰であったかについて最終的な考察を行ったので発表したいと思います。

## 2 前回の発表論文

前回の投稿論文では、邪馬台国を邪馬壹国、台与（トヨ）を壹与（イヨ）としたが、それぞれ邪馬台国、台与（トヨ）と訂正します。後で討論でも述べますが、草書体で書くと‘壹’も‘臺’も見た目が同じになります。それにより台（臺）が正しいと考えます。

前回は、今まで長く論争されてきた畿内説並びに九州説のどちらにも整合性のとれる説を発表したいと思い、邪馬台国東遷説の一つを提唱した。つまり、九州から畿内に移ったという説。

## 3 今回の説の基になる史実。

前回は前述の武内宿禰の口伝により欠史八代が存在したことなどを基に、天皇在位年代を割り出し発表した。史実と整合性が取れず多少こじつけて年代を設定したが、この度は他の口伝をもとに算出すると、ぴったりと在位年があうので表1に示した。

これによれば、卑弥呼が魏に使者を送ったといわれる239年は、志賀高穴穗宮にいた稚足彦、若帯日子、ワカタラシヒコ、第13代成務天皇在位年代で、彼は景行天皇14年に生まれた。同51年に立太子、景行天皇崩御の同60年11月7日から在位。（ただし、応神天皇以前は春秋歴。6月末で一年の祓い。12月末に大祓い。1年が2年であった。）

第13代成務天皇の生年月日は、武内宿禰の口伝によると武内宿禰と同じ。双子だったといわれる。そして、髭を付けたときは武内宿禰として、付けないときは成務天皇として時々入れ替わっていたと。

さらに、兄弟がたくさんいて、ヤマトタケルノミコト日本武尊をはじめ、五百城入彦、五十狭城入彦（気入彦）、大碓など。

なかでもヤマトタケルは仲哀天皇の父としても有名で、尊の称号がついているため、天皇だったとの説が強い。ただし、口伝を含め他の傍証にも裏付けされているが、ヤマトタケルは存在しなかったとの説もある。そのため、天皇としての尊の称号はつけてはいるが、在位天皇には数えられない。

これはつまり、ときどき成務天皇であった武内宿禰と同一視できる。事績としても、四道将軍として全国各地に派遣されたのであるが、派遣したのは兄の武内宿禰だと第73世武内宿禰は言うが、行った先や亡くなった先には武内宿禰がいることが多い。本来は四将軍が別々の場所にいるべきなのに。

ここでは詳しくは述べないが、大彦や他の将軍も、第73世武内宿禰が言うような本来の四道将軍としての役割は実際には果たしていない。

つまり、ヤマトタケルは本人としては存在していない。そしてさらに言えば、仲哀天皇は実際には存在せず、武内宿禰の子供であり、早逝したといわれる。

そして、後を継いだ応神天皇は、第73世武内宿禰も言うように一般に武内宿禰の子供といわれるが、実際には早逝した彼の子の代わりに天皇にした豊の系統の竹葉瀬の君であった。

#### 4 邪馬台国はどこだったか？

先に述べた、天皇史の年代から言えることは、魏に使者を送った時の景初二年六月は、天皇は第13代成務天皇ワカタラシヒコウカタ。そして、魏に使者として行ったのは武内宿禰であった。

そして、その時は九州ではなく志賀の高穴穗宮に天皇はいた。

さらにいえば、魏には使者を送ったが、魏の使者は当時の都には来ていない。陳寿が記述はしたが、行ったわけではないし、卑弥呼にも会っていない。卑弥呼は人に会わない。

前回は述べたように、もともと陳寿は楷書では書いていないので、臺も壹も、大も海も草書では同じに見える。

#### 5 卑弥呼は誰であったか？

そして、最大の謎、「卑弥呼」は「ピミと呼ぶ。」の意味。

つまり、「ヒメと呼ぶ」の意味。当時も、今も、ほんとの名前では呼ばない。

当時の天皇は成務天皇ワカタラシヒコウカタ。使者の一人は武内宿禰。そしてもう一人は田道間守、そして十市瓊入姫、額田彦も。

” 三国志魏書第 30 卷烏丸鮮卑東夷伝倭人条“以下” 魏志倭人伝“と記載するが、” 後漢書東夷伝“や” 魏志倭人伝“にみられる倭人の名称は、前者においては師升（シショウまたはスイショウ）、後者においては、邪馬台国女王卑弥呼、伊支馬（イキマ）、彌馬升（ミマショウ）、彌馬護支、奴佳鞮、狗奴国の狗古智卑狗（クコチヒク）また、邪馬台国の台与（トヨ）、大夫難升米（ナシメ）、都市牛利、大夫伊聲耆、大夫掖邪狗、狗奴国男王卑弥弓呼素、載斯烏越などがある。

また、遡る後漢の時代 AD 57 年にもらった「漢委奴国王」の印は九州志賀島で見つかったが、AD 57 年は第 8 代孝元天皇の時代。また、AD 107 年に生口を漢に献上したのは帥升で、AD 107 年は第 9 代開化天皇の時代である（表 1）

まず、師升であるが、師（シ）ではなく帥（スイ）であるといわれるが、これも行書で書けば同じ。区別はつかない。前回、師升は第 3 代安寧天皇シキツヒコタマテミの「シキ」と述べたが、今回は、第 8 代孝元天皇オオヤマトネコヒコクニクルと第 9 代開化天皇ワカヤモトネコヒコオオヒビまたはフトヒヒの時代と考える。天皇の名称を使者とするのはやはりおかしい。孝元天皇の時代はヤマトトヒモソヒメの時代でもある。

一方、梁書では、後漢の靈帝の時代（178～183 年）が卑弥呼の時代ともいわれ、この場合はイクメイリヒコイサチ第 11 代垂仁天皇の時代。第 8 代孝元天皇、第 9 代開化天皇の時代よりも後になる。実際には表 1 にもあるように垂仁天皇の時代は台与の時代。

そして、前回、魏志倭人伝の伊支馬（イキマ）はイクメイリヒコイサチ第 11 代垂仁天皇の「イクメ」と述べ、彌馬升（ミマキ）をミマキイリヒコイニエ第 10 代崇神天皇の「ミマキ」と述べた。

また、前回、台与（トヨ）の時代の大夫難升米（ナシメ）も「イクメ」と述べた。

今回訂正する。卑弥呼の時代と台与の時代は当然違う。したがって、伊支馬（イキマ）と難升米（ナシメ）はどちらかが「イクメ」ではない。

台与の時代、つまりイクメイリヒコイサチ第 11 代垂仁天皇からの時代の難升米（ナシメ）が「イクメ」かもしれない。

そして、第 12 代景行天皇、第 13 成務天皇の時代につづく。

239 年に魏に行ったのは、難升米（ナシメ）のほかに、都市牛利（トシゴリ）、大夫伊聲耆、大夫掖邪狗、載斯烏越。

彌馬護支（ミマカキ）、奴佳鞮（ヌカテ）もいた。

次のような説もある。

都市牛利（トシゴリ）＝十市瓊入（トウチニイリ）姫、

奴佳鞆（ヌカテ）＝額田（ヌカタ）宿禰、

載斯烏越（タイシウチ）＝武内（タケシウチ）宿禰。

そして、

卑弥呼は姫ヒメ＝ヤマトトビ大和登美モモソ姫

台与も姫ヒメ＝トヨタマ豊玉姫

## 6 討論

まず文字の問題

私は本格的な研究の日が浅く、前回の論文を投稿後に、知人から「邪馬台国関連論文集」を貸していただき、白鳥博士の論文をはじめ過去の論文を読んでいくと、井上悦文氏の説に行き当たり、それまでは、いわゆる魏志倭人伝の記述が書き間違っているという考え方に始まる議論は不毛だとばかり思っておりました私にとっては、覚醒の感あり。

行書で書いたサユラ神社（左右良布神社）はアテラ神社（麻氏良布神社）。

アマテラス神社（麻氏良須神社）と同じと知った。

アマテラス（麻氏良須）はアテラ（麻氏良布）、アサクラ（麻氏良）（朝倉）（朝闇）と同じ。アサクラ寺（朝闇寺）は、チョウアン寺（朝闇寺）（長安寺）と同じ。

もともとの陳寿が書いた原文は楷書で書かれているはずがない。

‘左右’ ----- 行書体で書けば、‘麻氏’と同じ

’布’ ----- 行書体で書けば、’須’と同じ

邪馬台国の‘台’の文字は、’壹’か’臺’か？----- 草書体で書けば、どちらも同じに見える。‘臺（タイ）’と思った人が後に’倭（タイ）’の字を使った。

’對海’は’對馬’の間違いか？-----間違いであるとの認識が既に定説になっている。草書体では、‘海’が‘馬’に見える。

草書体なら’華奴蘇奴’も’華奴蘇キ（カンザキ）’の可能性もあるし、’投馬’も’擦馬（サツマ）’かもしれない。

そして、発音の問題

発音の問題についてのみならず、安本美典氏の研究は科学的かつ詳細であり、感服いたしました。安本氏の著書にある基本は万葉仮名で読み、あとは上古の音ではなく中古の音で読むとの指摘はもっともとのこととと思いました。

ただ一部、安本氏の「好古都国（コウコトコク）は博多（ハカタ）と読めるが、博多では奴国と近すぎるので岡田ではないか。」との文章に出会ったときは、'ハカタ' と読む人がいたと嬉しくなりましたが、'岡田' と聞いてがっかり。福岡に住んだことのある方はわかると思いますが、博多と福岡は違う街です。福岡は城下町。博多は門前町。奴国（那の津）は福岡。博多は奴国ではありません。住んだことのない方に分かりやすく説明すれば、福岡那の津と博多の間にはかの有名な中洲があります。橋のない時代には船でしか行き来できませんでしたし、今でも橋一つ渡ると違う街です。

結局、邪馬台国は邪馬臺国か邪馬壹国か？----- 漢委奴国王の場合と同じで、漢では委を'イ'と発音した可能性は高いが、訓読みでは'ワ'と発音したと思われる。つまり、漢からすれば、委（ワ）は東夷、つまり東海の夷（イ）であった。同じく、臺は壹だったかもしれない。壹（イ）は委（イ）である。草書体に壹を臺と書いた人がいて、臺（ダイ）が生きたが、臺（ダイ）を'ト'とよんで、国内向けに倭（ヤマト）の'ト'にしたものと考えられる。後に'臺（ダイ）'は'倭（タイ）'とも書かれており、'日本'は'倭（タイ）'国の別種、または'倭（タイ）'国を吸収したとの記事もある。

距離と方向の問題。

距離の問題は、短里で決着がついていると思われるが、方向は南は東ではないか？

草書でも、南と東は間違えないだろうし、それはないことと思われるが、古地図を見ると日本が90度回って九州が北になっているものもあり、潮の流れなども含め、南方向に行っているつもりでも実際は東のこともあるが、太陽の位置や星の位置からは間違いようがない。

また水行の問題であるが、現在の地図でも、福岡を北に流れる御笠川と南に流れる筑後川の源流である宝満川とは、どちらも源流は同じである。そこに御笠山宝満山がある。

福岡の御笠山宝満山は朝倉と近い。麻氏良須アマテラスを朝倉としてその存在を隠した言葉からして、このあたりが邪馬台国で間違いないと思われる。

しかしながら、卑弥呼の時代には九州には天皇はおらず、また、台与の時代にも、九州にはいない。結局、邪馬台国は魏の使者に話としてのみ伝えたものと考えられる。そしてそこは、天皇家の元に居た場所であった。

## 7 結論

卑弥呼のいた邪馬台国の場所は九州にはなかったが、魏に対する話として九州にあった邪馬台国を卑弥呼の邪馬台国としたものである。

卑弥呼はだれか？-----古来より、天皇や将軍やその邦の主は名前では呼ばれない。お上、殿、姫などと下々は呼ぶ。直接向かって呼ぶときは、上様、殿様、姫様やお館様など、お内裏様やお雛様とも呼ぶことはあるが、名前では呼ばないし、名乗らない。古代の王とくに大王の名前は最重要極秘情報であった。神武天皇がサノノミコトとはほとんどの人が知らない。

つまり、卑弥呼は‘ヒメと呼ぶ’のことと思われる。

卑弥呼は第8代孝元天皇の時代の姫ヒメ＝ヤマトトビ大和登美モモノ姫  
台与も第11代垂仁天皇の時代の姫ヒメ＝トヨタマ豊玉姫

#### <文献>

- 1 古事記の宇宙 竹内睦泰 青林堂
- 2 古事記の暗号 竹内睦泰 学研プラス
- 3 古事記の邪馬台国 竹内睦泰 青林堂
- 4 天皇の秘儀と秘史 竹内睦泰 学研プラス
- 5 祓い言葉の謎を解く 萩原継雄 叢文社
- 6 古伝が語る古代史（宇佐家伝承） 宇佐公康
- 7 出雲と蘇我王国 斎木雲州 大元出版
- 8 出雲王国とヤマト政権 富士林雅樹 大元出版
- 9 日本人になった祖先たち 篠田謙一 NHKBOOKS
- 10 倭国ここに在り 吉留路樹 葦書房
- 11 邪馬台国研究総覧 三品彰英 創元学術双書
- 12 草書体で解く邪馬台国の謎 井上悦文 梓書院
- 13 倭人語の解説 安本美典 勉誠出版
- 14 神道事典 国学院大学 日本文化研究所編

| 書名         | 編纂者              | 編纂時期          | ‘台’の文字   |
|------------|------------------|---------------|----------|
| 0 史記       | 司馬遷              | BC91年         |          |
| 0 漢書       | 班固               | AD82年頃        |          |
| 4 後漢書 120巻 | 范曄 (398～445年)    | 南朝劉宋時代 432年   | 臺 (タイ)   |
|            | 後漢書の李賢注          |               | 惟 (イ)    |
| 1 三国志 65巻  | 陳寿 (233～297年)    | 西晋時代同時代 290年  | 壹 (イ)    |
| 6 晋書 130巻  | 房玄齡 (578～648年)   | 唐代 648年       |          |
| 2 宋書 100巻  | 沈約 (441～513年)    | 南朝齊代同時代 490年頃 |          |
| 3 南齊書 59巻  | 蕭子顯 (489～537年)   | 南朝梁代同時代 537年  |          |
| 5 梁書 56巻   | 姚思廉 (?～637年)     | 唐代同時代 626年    |          |
| 7 隋書 85巻   | 魏徵 (580～643年)    | 唐代同時代 636年    | 堆、倭 (タイ) |
| 8 旧唐書 200巻 | 劉昫 (887～946年)    | 五代晋の 945年     |          |
| 9 新唐書 225巻 | 歐陽脩 (1007～1072年) | 北宋の 1060年     |          |

- 隋書倭国 (タイコク) 伝には、「邪摩堆 (ヤマタイ) に都す。即ち魏志の所謂 邪馬臺 (ヤマタイ) である。開皇 20 年 (600 年) 倭 (タイ) 王阿輩鷄彌 (オホギミ) 阿每多利思北孤 (アマノタリシヒコ) が遣使し闕に詣ず。内官十二等あり、阿蘇山あり。・・・」と。
- この十二等は、日本で 603 年に制定されたいわゆる官位十二階ではなく、隋の官位と同じ。
- 開府儀同三司または三公 1 太宰 2 太保 3 太傅 続いて 太尉 司徒 司空  
その下に 大將軍とか司馬
- 大倭国 (タイイコク) が倭国 (タイコク) か？

「倭国ここに在り 吉留路樹 葦書房」より

- 帝紀（ていき）－ 帝皇日嗣（ていおうひつぎ） 武内禰祢が伝承  
 旧辞（ふること）－ 先代旧辞（さきのよのふること）
- 620年 天皇記（てんのうき、すめらみことのふみ）  
 － 聖徳太子、蘇我馬子による。帝紀とほぼ同じ内容。
- 620年 国記（くにつふみ）  
 － 聖徳太子、蘇我馬子による過去の歴史の隠蔽ともいわれる。
- 680年～720年 旧事紀（旧事紀であって旧辞紀ではない。）  
 10巻本 936年写本あった。 ニギハヤヒギハヤヒのことなど記載
- 620年 天皇記（てんのうき、すめらみことのふみ）  
 － 聖徳太子、蘇我馬子による。帝紀とほぼ同じ内容。
- 620年 国記（くにつふみ）  
 － 聖徳太子、蘇我馬子による過去の歴史の隠蔽ともいわれる。
- 680年～720年 旧事紀（旧事紀であって旧辞紀ではない。）  
 10巻本 936年写本あった。 ニギハヤヒギハヤヒのことなど記載  
 31巻本 1670年に出現 ささき伝  
 38巻本 1679年以前に出現 高野本  
 72巻本 1679年に出現 潮音本  
 30巻本 1720年に出現 白川伝、伯家本
- 712年 古事記（ふることふみ） 稗田阿礼、太安万侶 偽書の疑惑あり。  
 720年 日本書紀 川嶋皇子、中臣連大島など 日本正史
- 807年 古語拾遺 藤原氏中臣氏に対する齋部広成による忌部氏の愁訴陳情書
- 1670年～1720年 先代旧事本紀大成経
- 1730年 喚起泉達録 若林家古記
- 1764年～1777年 秀真伝（ホツマツタエ）、フトマニ、三笠山紀（ミカサフミ）
- 1873年 上記 宗像家家伝
- 1886年 琉球神道記 1605年に浄土宗僧侶書く
- 1905年 契丹古伝 奉天郊外のラマ教寺院で発見 10世紀の書
- 1908年 但馬国司文書 814年～974年編集
- 1919年 甲斐古蹟考
- 1922年 宮下文書 上に述べた
- 1922年 南淵書 7世紀僧南淵請安書く
- 1928年 竹内文書 竹内巨磨の公開文書（竹内睦泰氏とは無関係）
- 1939年 九鬼文献 九鬼子爵家伝
- 1941年 秋田物部文書 唐松神社社家物部氏文書
- 1966年 カタカムナノウタヒ 檜崎臯月発見
- これらに対して、各地方の風土記、現在残っている5風土記、出雲国風土記、播磨国風



土記、常陸国風土記、豊後国風土記、肥前国風土記などは確かな伝承が多いらしい。

國學院大學 日本文化研究所編の神道事典の神の代数は帝皇日嗣と同じ。

神道事典は、神の代数で言えば、15代応神天皇時代の280代春山之霞壮夫（ハルヤマノカスミオトコ）、21代雄略4年2月281代一言主大神までを記載。天皇の代で言えば、41代持統天皇までを記載。現在の今上天皇は126代であるが、古事記は推古天皇33代まで。日本書紀は持統天皇までを記載。

表1

別紙